

平成24年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成24年11月12日  
上場取引所 大

上場会社名 スターツ出版株式会社  
 コード番号 7849 URL http://starts-pub.jp/  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 菊地 修一  
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員管理部長（氏名） 金子 弘（TEL） 03（6202）0311  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月13日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 平成24年12月期第3四半期の業績（平成24年1月1日～平成24年9月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第3四半期	3,053	17.2	264	△26.4	277	△26.5	187	△29.4
23年12月期第3四半期	2,605	3.3	359	120.2	376	105.3	265	121.2

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年12月期第3四半期	9,753	24	—	—
23年12月期第3四半期	13,824	19	—	—

（2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
24年12月期第3四半期	3,247		2,696		83.0		140,434	15
23年12月期	3,297		2,567		77.9		133,724	79

（参考）自己資本 24年12月期第3四半期 2,696百万円 23年12月期 2,567百万円

2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
23年12月期	—	—	0	00	—	—	3,000	00	3,000	00
24年12月期	—	—	0	00	—	—				
24年12月期（予想）							3,000	00	3,000	00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成24年12月期の業績予想（平成24年1月1日～平成24年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	4,000	7.9	480	21.5	500	21.7	280	5.7	14,583	33

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う変更：無

② ①以外の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

24年12月期 3 Q	19,200株	23年12月期	19,200株
24年12月期 3 Q	－株	23年12月期	－株
24年12月期 3 Q	19,200株	23年12月期 3 Q	19,200株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

#### ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項はP. 3 「1. 当四半期の業績等に関する定性的情報の（3）業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
第3四半期累計期間 .....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(6) セグメント情報等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、復興需要の下支えにより国内需要は底堅く推移しております。しかしながら、欧州や新興国経済の減速や領土問題等により対外経済環境の不確実性は高く、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

こうした状況の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という企業ビジョンのもとに「紙×デジタル×イベント」という3つの立体的な仕掛けによる「体験価値プロモーション」に積極的に取り組んでまいりました。女性向け情報誌「オズマガジン」や「ケータイ小説」と呼ばれる書籍、ビジネスパーソン向けフリーマガジン「メトロミニッツ」、地域密着型のフリーペーパー「アエルデ」等の発行と女性向けサイト「オズモール」をはじめとするウェブサイトとモバイルサイトの運営を継続的に行うとともに、これらのメディアに体験型イベントを組み合わせることでユーザーの皆様が街に出掛けるキッカケを提供するとともに新たな需要を創出しております。当第3四半期累計期間は、これらの取組みが奏功し売上は順調に増加しました。一方、費用面においては、販売売上増にともない返品調整引当金、積極的な広告宣伝活動により広告宣伝費、事業拡大により労務費が増加し、また本部オフィス移転にともない地代家賃も増加しております。このような営業活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は30億53百万円（前年同期比17.2%増）、営業利益は2億64百万円（前年同期比26.4%減）、経常利益は2億77百万円（前年同期比26.5%減）、四半期純利益は1億87百万円（前年同期比29.4%減）となりました。

#### <雑誌事業>

雑誌事業におきましては、本年で創刊25周年を迎えた女性向け情報誌「オズマガジン」やフリーマガジン「メトロミニッツ」、「ケータイ小説」と呼ばれる書籍などの販売および広告事業を展開してまいりました。出版不況といわれて久しい環境の中で「オズマガジン」は販売売上、広告売上ともに堅調に推移しております。広告売上においては創刊25周年イベント「スマイルフォトキャラバン」をはじめとしたイベントとの連動広告企画が奏功しております。「ケータイ小説」と呼ばれる書籍におきましては、女子中高生を中心に確実なシェアを得ている「ケータイ小説文庫シリーズ」を中心に発行しており、ターゲット層を明確にした戦略と販売促進活動の効果もあり売上は堅調に推移しております。また、書籍コンテンツ部門では、7月に無料投稿閲覧マンガサイト「まんまる。」をオープンし、ケータイ小説サイト「野いちご」で培ったノウハウを生かしたマンガ事業をスタートさせることもできました。

このような営業活動の結果、雑誌事業の売上高は11億32百万円（前年同期比28.4%増）、営業損失は5百万円（前年同期は営業損失28百万円）となりました。

#### <インターネット事業>

インターネット事業におきましては、女性向けウェブサイト「オズモール」を中心に展開してまいりました。「オズモール」は、当第3四半期累計期間末現在で170万人の会員を有し、『東京OLの恋とキレイを応援するウェブサイト』をコンセプトに独自の編集力を活かした特集記事の掲載、体験型イベントの実施や企業とのコラボレーション企画、コンサルティング業務の受託を行うなど順調に業績を拡大させています。また、成功報酬型送客サービス「オズのプレミアム予約」シリーズでは、オズ独自の基準で厳選したホテル、温泉、レストラン、ビューティーサロンなどの施設利用予約が可能となっており、当四半期累計期間末現在で約54万組（前年同期比24.9%増）のお客様に利用していただいております。「オズのプレミアム予約」シリーズでは、更なる利用者数増加への施策として、体験型イベントと組み合わせたオリジナルプランの提供や、サービス利用者へのポイント付与などのリピーターの囲込み施策を行っており、手数料売上は堅調に推移しております。

このような営業活動の結果、インターネット事業の売上高は15億12百万円（前年同期比13.7%増）、営業利益は2億56百万円（前年同期比31.0%減）となりました。

#### <地域情報紙事業>

地域情報紙事業におきましては、地域密着型フリーペーパー「アエルデ」の広告掲載営業活動と企業の販促物の制作請負を行う事業を継続的に展開してまいりました。「アエルデ」においては、当第3四半期累計期間末で6つのエリアで地域密着の紙面づくりと、飲食店等のクーポン型広告の深耕営業を継続的に行ってまいりましたが、継続する景気低迷の影響もあり、前年同期と比べますと売上は減少しております。一方、企業の販促物の制作請負を行う事業は前年同期と比べますと売上は増加しております。

このような営業活動の結果、地域情報紙事業の売上高は4億8百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益は25百万円（前年同期比2.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末の資産は、前事業年度末と比べ49百万円減少し、32億47百万円となりました。流動資産は、売掛金が99百万円増加した一方で、現金及び預金が1億96百万円減少した事などにより、前事業年度末に比べ66百万円減少し、27億33百万円となりました。

固定資産は、前事業年度末と比べると16百万円増加し、5億14百万円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末と比べ1億78百万円減少し、5億51百万円となりました。流動負債は、賞与引当金が56百万円、返品調整引当金が33百万円増加した一方で、買掛金が33百万円、未払金が21百万円、未払法人税等が1億28百万円減少した事などにより、前事業年度末と比べると75百万円減少し、5億15百万円となりました。

固定負債は、退職給付引当金の減少により、前事業年度末と比べると1億2百万円減少し、35百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べると1億28百万円増加し、26億96百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1億29百万円増加した事によるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度に比べ1億96百万円減少し、13億32百万円となりました。

当第3四半期における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、16百万円（前年同四半期の得られた資金は5億15百万円）となりました。これは主に、税引前四半期純利益を3億22百万円計上し、減価償却費を69百万円計上し、賞与引当金が56百万円増加、返品調整引当金が33百万円増加しましたが、一方で退職給付引当金が1億2百万円減少、売上債権が99百万円増加し、法人税等を2億49百万円支払った事などによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1億21百万円（前年同四半期の使用した資金は1億52百万円）となりました。これは有形固定資産の取得による支出が17百万円、無形固定資産の取得による支出が1億1百万円があった事によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は57百万円（前年同四半期の使用した資金は48百万円）となりました。これは全て前事業年度決算の剰余金処分である配当金の支払いによるものです。

(3) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想に関しましては、平成24年2月10日発表の「平成23年12月期 決算短信（非連結）」に記載しました業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### （2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### （追加情報）

#### （会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

第1四半期累計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

### （退職給付引当金）

当社は、平成24年1月1日付で、適格退職年金制度から確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号）を適用しております。

この制度移行により、特別利益に退職給付制度改定益45,602千円を計上しております。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,528,790	1,332,709
売掛金	1,241,051	1,341,046
製品	30,998	53,762
仕掛品	15,612	21,740
前払費用	20,720	18,187
繰延税金資産	40,860	58,475
その他	5,716	5,620
返品債権特別勘定	△72,008	△88,197
貸倒引当金	△11,851	△9,718
流動資産合計	2,799,889	2,733,625
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	33,013	29,402
工具、器具及び備品(純額)	53,259	50,379
有形固定資産合計	86,272	79,782
無形固定資産		
商標権	3,975	4,129
ソフトウェア	158,010	228,737
電話加入権	2,376	2,376
その他	20,349	5,541
無形固定資産合計	184,711	240,784
投資その他の資産		
関係会社株式	30,000	30,000
投資有価証券	41,810	40,115
出資金	100	100
差入保証金	90,733	90,653
繰延税金資産	58,222	24,043
その他	5,575	8,645
投資その他の資産合計	226,441	193,557
固定資産合計	497,426	514,124
資産合計	3,297,315	3,247,749

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	218,826	185,228
未払金	73,874	52,615
未払法人税等	128,381	—
未払事業所税	3,591	2,701
未払消費税等	10,910	15,681
未払費用	20,818	33,966
前受金	13,630	12,471
預り金	28,005	30,120
賞与引当金	20,000	76,000
返品調整引当金	73,291	106,976
流動負債合計	591,330	515,762
固定負債		
退職給付引当金	138,469	35,651
固定負債合計	138,469	35,651
負債合計	729,799	551,413
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	1,487,602	1,617,265
株主資本合計	2,564,602	2,694,265
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,913	2,070
評価・換算差額等合計	2,913	2,070
純資産合計	2,567,515	2,696,335
負債純資産合計	3,297,315	3,247,749



(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	2,605,248	3,053,169
売上原価	1,644,354	1,995,266
売上総利益	960,893	1,057,903
返品調整引当金戻入額	94,351	73,291
返品調整引当金繰入額	65,880	106,976
差引売上総利益	989,364	1,024,218
販売費及び一般管理費	630,336	759,922
営業利益	359,028	264,296
営業外収益		
受取利息	2,223	128
受取配当金	11,172	8,320
雑収入	4,568	4,201
その他	—	108
営業外収益合計	17,964	12,758
経常利益	376,992	277,055
特別利益		
移転補償金	61,686	—
返品債権特別勘定戻入益	15,685	—
貸倒引当金戻入額	178	—
退職給付制度改定益	—	45,602
特別利益合計	77,550	45,602
特別損失		
固定資産除却損	497	485
特別損失合計	497	485
税引前四半期純利益	454,046	322,172
法人税、住民税及び事業税	246,544	117,493
法人税等調整額	△57,922	17,416
法人税等合計	188,621	134,909
四半期純利益	265,424	187,262

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	454,046	322,172
減価償却費	51,169	69,560
移転補償金	△61,686	—
固定資産除却損	497	485
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,728	△2,133
賞与引当金の増減額(△は減少)	60,500	56,000
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,683	△102,817
返品債権特別勘定の増減額(△は減少)	△15,685	16,188
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△28,470	33,684
受取利息及び受取配当金	△13,395	△8,448
売上債権の増減額(△は増加)	155,093	△99,994
たな卸資産の増減額(△は増加)	△23,200	△28,891
その他の資産の増減額(△は増加)	△1,448	7,565
仕入債務の増減額(△は減少)	11,577	△33,598
未払金の増減額(△は減少)	△1,451	△29,217
未払消費税等の増減額(△は減少)	△13,993	4,771
その他の負債の増減額(△は減少)	23,537	13,214
その他	△607	5,576
小計	597,435	224,116
利息及び配当金の受取額	13,534	8,448
法人税等の支払額	△157,235	△249,393
移転補償金の受取額	61,686	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	515,421	△16,827
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△50,271	△17,594
無形固定資産の取得による支出	△91,781	△101,073
差入保証金の回収による収入	111,592	79
差入保証金の差入による支出	△122,048	—
その他	—	△3,070
投資活動によるキャッシュ・フロー	△152,508	△121,658
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△48,099	△57,594
財務活動によるキャッシュ・フロー	△48,099	△57,594
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	314,814	△196,081
現金及び現金同等物の期首残高	1,420,938	1,528,790
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 1,735,752	* 1,332,709

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第3四半期累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	雑誌事業	インターネット 事業	地域情報紙 事業	計	調整額(注)	四半期損益 計算書計上額
売上高						
(1) 外部顧客への 売上高	881,766	1,329,450	394,031	2,605,248	—	2,605,248
(2) セグメント 間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	881,766	1,329,450	394,031	2,605,248	—	2,605,248
セグメント利益 又は損失(△)	△28,857	371,684	26,342	369,169	△10,141	359,028

(注) セグメント利益の調整額△10,141千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	雑誌事業	インターネット 事業	地域情報紙 事業	計	調整額(注)	四半期損益 計算書計上額
売上高						
(1) 外部顧客への 売上高	1,132,240	1,512,047	408,881	3,053,169	—	3,053,169
(2) セグメント 間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,132,240	1,512,047	408,881	3,053,169	—	3,053,169
セグメント利益 又は損失(△)	△5,737	256,313	25,606	276,182	△11,886	264,296

(注) セグメント利益の調整額△11,886千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。